坂城町埋蔵文化財調査報告書第11集

町内遺跡発掘調査報告書
1996

長野県埴科郡坂城町平成8年度試掘調査報告書

1997

坂城町教育委員会

坂城町埋蔵文化財調査報告書第11集

町内遺跡発掘調査報告書
1996

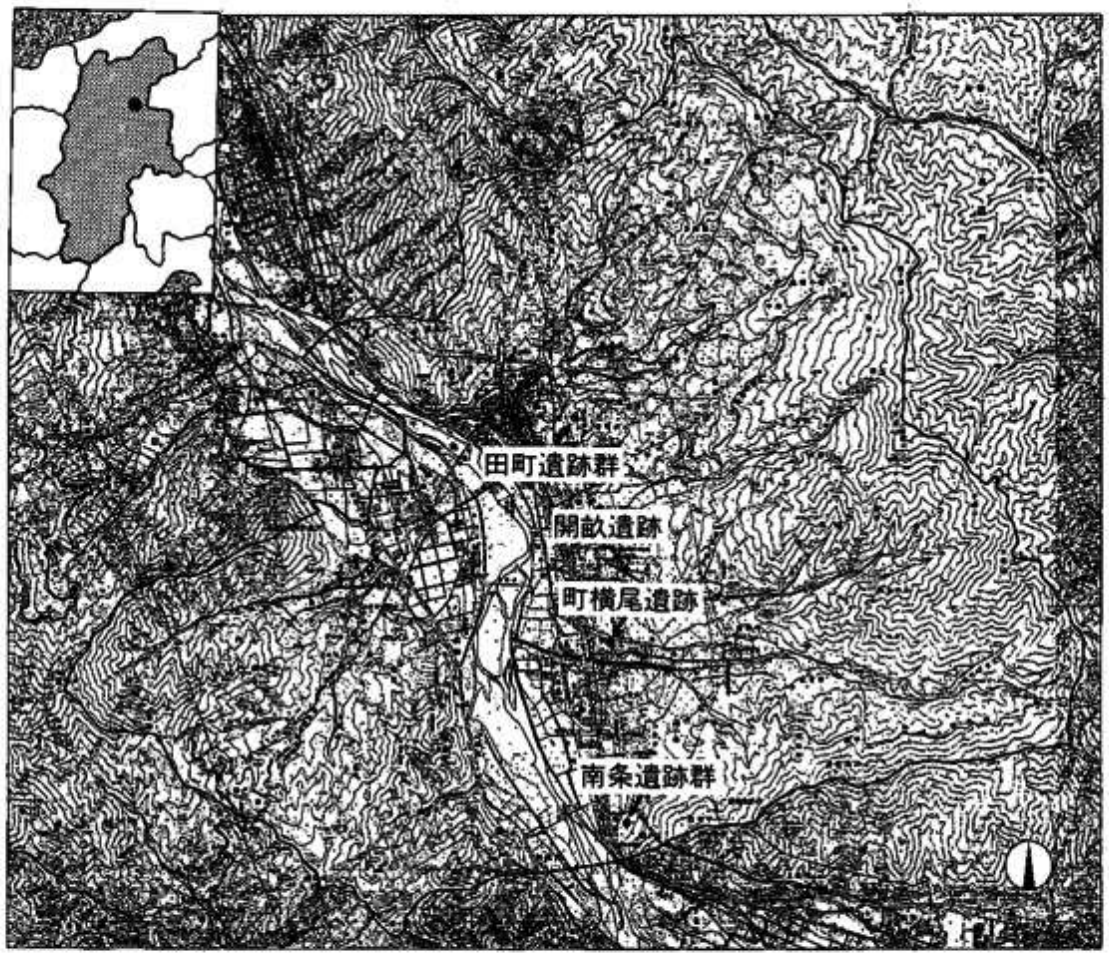
長野県埴科郡坂城町平成８年度試掘調査報告書

1997

坂城町教育委員会

目次

目次 ―― 3
例言 ―― 4
第Ⅰ章　試掘調査
1　田町遺跡群 ―― 6
2　南条遺跡群 ―― 9
3　町横尾遺跡 ―― 18
4　開畝遺跡 ―― 21
町内遺跡発掘調査位置図 ―― 23



長野県埴科郡坂城町位置図

例　言

1　本書は、長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成８年度町内遺跡試掘調査の調査報告書である。

2　調査費用は、国庫及び県費の補助を得て実施した。

3　事業執行体制

◆事務組織

教　育　長　西沢　民雄

社会教育課長　塩野入　猛

文化財係長　青木　昌也

文化財係　助川　朋広　小平　光一

天田　澄子　塩野入早苗　春原かずい　瀬在　孝子

塚田さゆり　塚田　千代　中村　久子　荻野れい子

宮尾美代子（以上、臨時職員）

◆調査組織

調査指導者　森島　稔（日本考古学協会員・長野県考古学会長・千曲川水系古代文化研究所主幹）平成８年６月16日逝去

塩入　秀敏（上田女子短期大学教授・日本考古学協会員）

調査担当者　助川　朋広　小平　光一（坂城町教育委員会学芸員）

調査補助員　天田　澄子　塚田さゆり　宮尾美代子（以上、臨時職員）

協　力　者　伊藤　篤　上野かず江　尾山　直久　栗林　初恵

小林さよ子　小林　巴　斎藤　義治　沢崎　茂子

清水　よ志　中村　静江　羽毛田とし子　柳沢　勲夫

山辺ケサエ（以上 更埴地域シルバー人材センター）

5　本の執筆・編集は、助川・小平が行った。

6　本書掲載の関係資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

第1章
試掘調査

1　田町遺跡群

所　在　地　大字坂城字岡の原5828－1・5828－2他
事業主体　坂城町土地開発公社
事　業　名　岡ノ原住宅団地造成事業（第2期）
調査期間　平成8年6月20日～21日
調査対象地面積　2,890㎡　試掘調査面積504㎡
担　当　者　小平光一

位置図（1：10,000）

遺跡の環境と経過

田町遺跡群は、坂城町坂城に所在し、標高432～443m内外を測り、金比羅山によって形成された谷地形の北西部にあたる。分布地図によると古墳～平安時代の散布地に位置づけられるが、調査対象地南側で実施した第1期に伴う試掘調査（平成6年度）では、遺構は検出されず、調査対象地より東側上部に遺構が存在する可能性が考えられた。

また調査対象地北東側には岡ノ原窯跡、土井ノ入窯跡、垣外窯跡が所在し、須恵器・布目瓦の窯であったことが判明している。

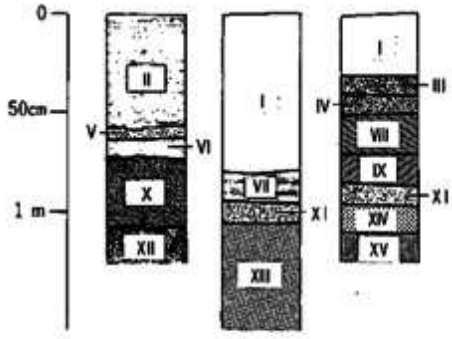
土井ノ入窯跡の布目瓦は、岡ノ原窯跡の西側直線距離約5.8kmに位置する込山廃寺（9世紀初頭？）に使用され、上田市信濃国分寺・尼寺・更埴市正法廃寺の差し瓦にも使用されていることが判明している。

このことから周辺には窯跡が存在しており、当対象地斜面には、同様な窯跡も存在することも考えられていた。

今回、坂城町土地開発公社による岡ノ原住宅団地造成事業（第2期）が計画されたため、試掘調査を実施し、遺構の存在を確認することとなった。

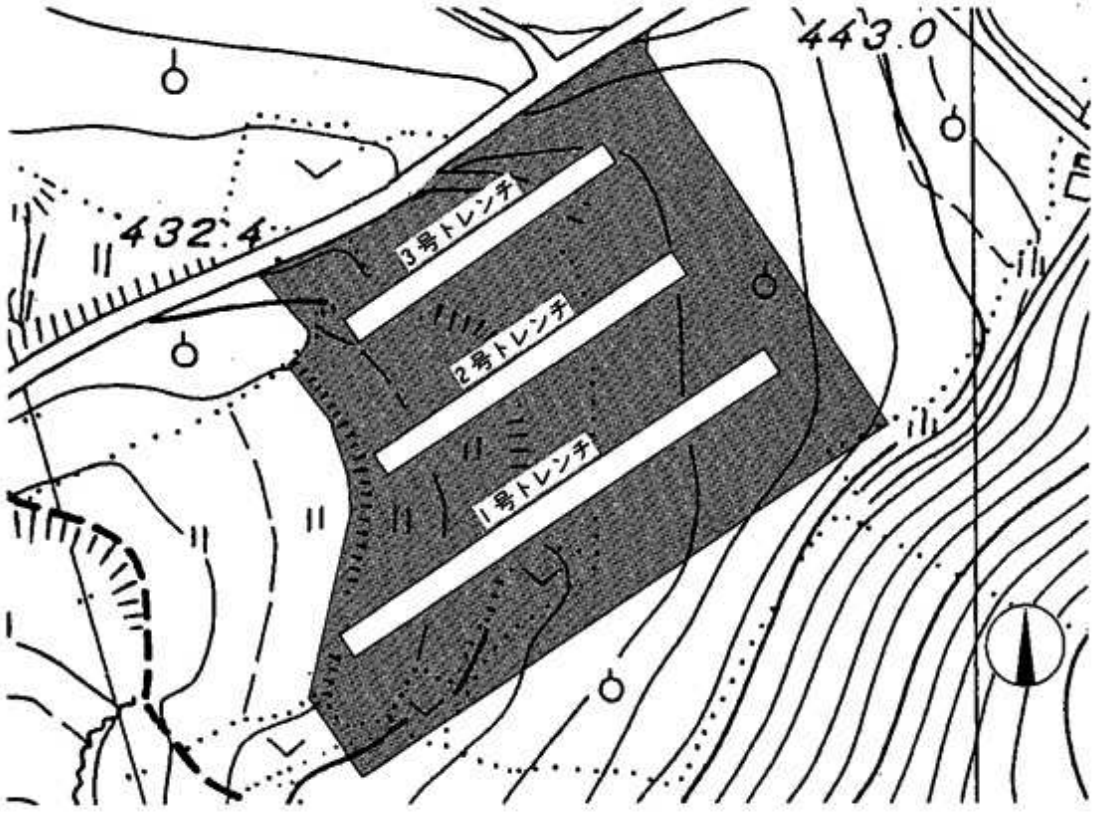
調査前近景（北西より）

2号トレンチ調査状況（東より）



I　盛土
II　明黄褐色～にぶい黄橙色土 (10Y R6/8～6/4)
III　にぶい黄褐色粘土(10Y R5/3) 現代水田床土
IV　黄褐色粘土(10Y R5/6) 現代水田溶脱層
V　明褐色砂礫土(7.5Y R5/8)
VI　明赤褐色土(2.5Y R7/6)
VII　褐色砂礫土(10Y R4/6)
VIII　にぶい赤褐色～黄褐色シルト (2.5Y R5/4～10Y R5/6)
IX　にぶい黄褐色～褐色シルト (10Y R5/4～4/4)
X　黄褐色砂礫土(10Y R5/8)
XI　灰黄褐色土(10Y R4/2)
XII　黄褐色土(10Y R5/6)
XIII　にぶい黄橙色土(10Y R4/2)
XIV　黄褐色シルト(10Y R5/8)
XV　暗オリーブ灰粘土(5GY4/1) グライ層

基本土層模式図



試掘トレンチ設定図（1：1,000）

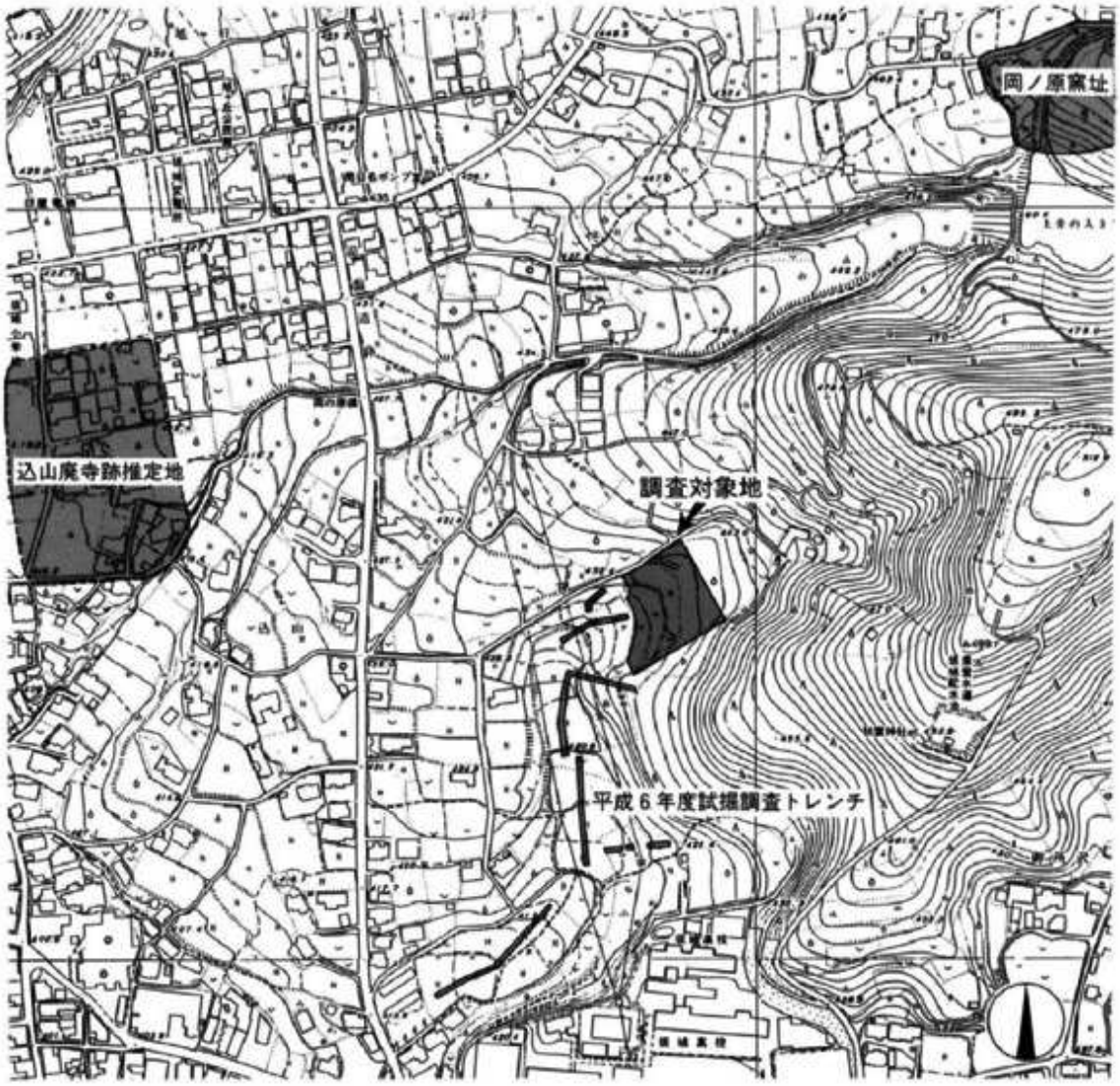
調査結果

調査対象地に3本のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。1層盛土から須恵器片が2点検出されたが、流れ込みによる混入遺物と考えられる。土層は金比羅山からの押出しによる自然

堆積で、調査区南側では湿地帯となっており、平成６年度実施の試掘調査と同様に遺構・遺物は確認されなかった。

しかしながら、調査区外東側に隣接するブドウ畑から、須恵器片を表面採集することができた。地主によると、ブドウ畑開墾時に焼土を伴って出土したということである。出土した遺構が住居址あるいは竈跡かどうか不明であるが、遺跡は調査区東側上部斜面・テラスに存在することが予想される。

調査区全景（西より）



田町遺跡群周辺主要遺跡分布図（１：5,000）

2　南条遺跡群

所　在　地　大字南条字笹原278－1・278－2
事業主体　赤池量夫
事　業　名　共同住宅建設
調査期間　平成8年10月30日～11月13日
調査対象地面積　1,600㎡　試掘調査面積202㎡
担　当　者　小平光一

位置図（1：10,000）

遺跡の環境と経過

南条（みなみじょう）遺跡群は坂城町南条に所在し、標高413m内外を測る。千曲川（ちくまがわ）によって形成された沖積地の自然堤防上に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、同遺跡内では、東裏（ひがしうら）遺跡（昭和58年度）、東裏遺跡Ⅱ・青木下（あおきした）遺跡（平成4・5年度）、東裏遺跡Ⅲ（平成7年度）、青木下遺跡Ⅱ（平成8年度）の発掘調査で、縄文時代中期～晩期・古墳時代後期～平安時代、中世の遺跡であることが判明している。

「東裏遺跡」の調査では、手捏（てづくね）土器・石製模造品といった祭祀的な遺跡であることが判明し、「東裏遺跡Ⅱ」の調査では古墳時代後期の粗製臼玉の玉造り工房址3棟の検出、古墳時代後期～平安時代の集落址が検出されている。「青木下遺跡」では、平安時代の仁和4（888）年に起きたとされる千曲川の洪水砂層に被覆された水田層が検出された。今年度調査を実施した「青木下遺跡Ⅱ」の調査では、古墳時代後期の環状に土器が配列された祭祀遺構やブロックの祭祀遺構などが新たに検出され、集落址と祭祀遺構、水田址が、明らかに占有空間として使い分けがなされていることが判明した。これらの調査をもって、遺跡名で東裏遺跡、青木下遺跡と命名しているが、基本的には同一遺跡と考えられ、空間の中での遺跡構造を考えた方が良いと思われる。

調査前近景（南より）

今回、赤池量夫氏による共同住宅建設が計画され、遺跡の破壊が予想されたため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。

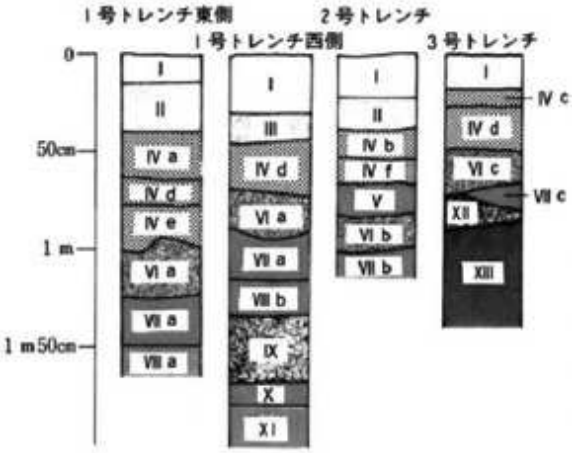
1号トレンチ調査状況（東より）

調査結果

調査対象地に3本のトレンチを設定し、遺構の存在を確認した結果、古墳時代後期と思われる集落址が展開していることが確認された。昭和36～39年に実施された農業構造改善事業の影響で上層は攪乱を受け、面としてとらえられないが断片的に近世（あるいは中世）の水田層が、断面から観察される。

調査区全景（東より）

Ⅳa～f層は仁和4年に起きたとされる千曲川の洪水砂層と思われる砂層で、調査区南側へ徐々に砂層堆積が薄くなっている。

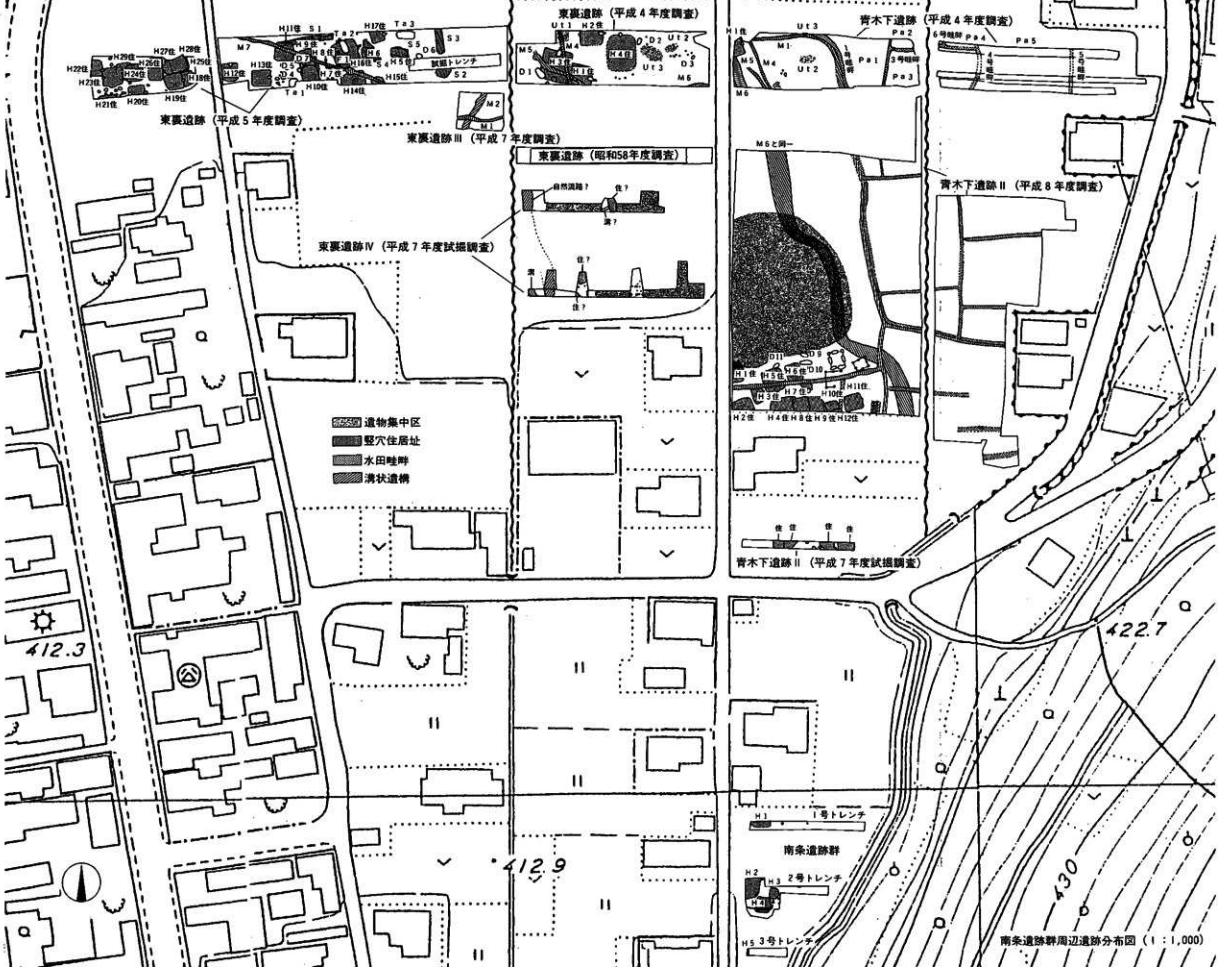


Ⅰ　現代水田層
Ⅱ　現代水田溶脱層
Ⅲ　褐色粘土(10YR4/4)近世？　水田層
Ⅳa　黒褐色砂層(10YR2/3)氾濫砂層
Ⅳb　黒褐色砂層(10YR3/2～7.5YR2/2)
Ⅳc　黒褐色～灰黄褐色砂層(10YR3/2～4/2)
Ⅳd　暗褐色～灰黄褐色砂層(10YR3/4～5/2)
Ⅳe　暗褐色～灰黄褐色砂層(10YR3/4～5/2)
Ⅳf　褐色～にぶい褐色砂層(7.5YR4/4～5/4)
Ⅴ　灰黄褐色土(10YR4/2)
Ⅵa　暗褐色土(10YR3/3)遺物包含層
Ⅵb　黒褐色土(10YR2/3)
Ⅵc　黒褐色土(10YR3/2)
Ⅶa　暗褐色土(10YR3/3)遺構検出面
Ⅶb　褐色土(10YR4/4)
Ⅶc　暗褐色土(10YR3/4)
Ⅷa　黒褐色土(10YR3/1)
Ⅷb　暗褐色土(10YR3/3)
Ⅸ　黒褐色土(10YR2/3)
Ⅹ　黒褐色土(7.5YR3/2)
Ⅺ　にぶい黒褐色土(10YR4/3)
Ⅻ　黒褐色土(10YR2/2)
Ⅻ　暗褐色土(10YR3/3)

基本土層模式図

Ⅵa～c層が遺物包含層で、遺構検出面はⅦa～c層は古墳時代後期の確認面である。1号トレンチで竪穴住居址1棟、2号トレンチで竪穴住居址3棟、3号トレンチで竪穴住居址1棟等が検出された。1・2・4号竪穴住居址はカマドが東向きである。3号竪穴住居址はカマドの位置は不明ではあるが、炭化材を多量に含んでいるため、焼失家屋の可能性がある。

Ⅷa～b層は周辺調査例と対比すると縄文土器包含層と考えられるが、出土遺物はない。Ⅸ～Ⅺ層は千曲川による自然堆積と考えられ、3号トレンチのⅫ・Ⅻ層は、調査区東側に位置する城の山の押出しによる自然堆積である。3号トレンチは他のトレンチに比べ、遺構検出面も高く地形的に見ても3号トレンチの西側が微凸地状になる。

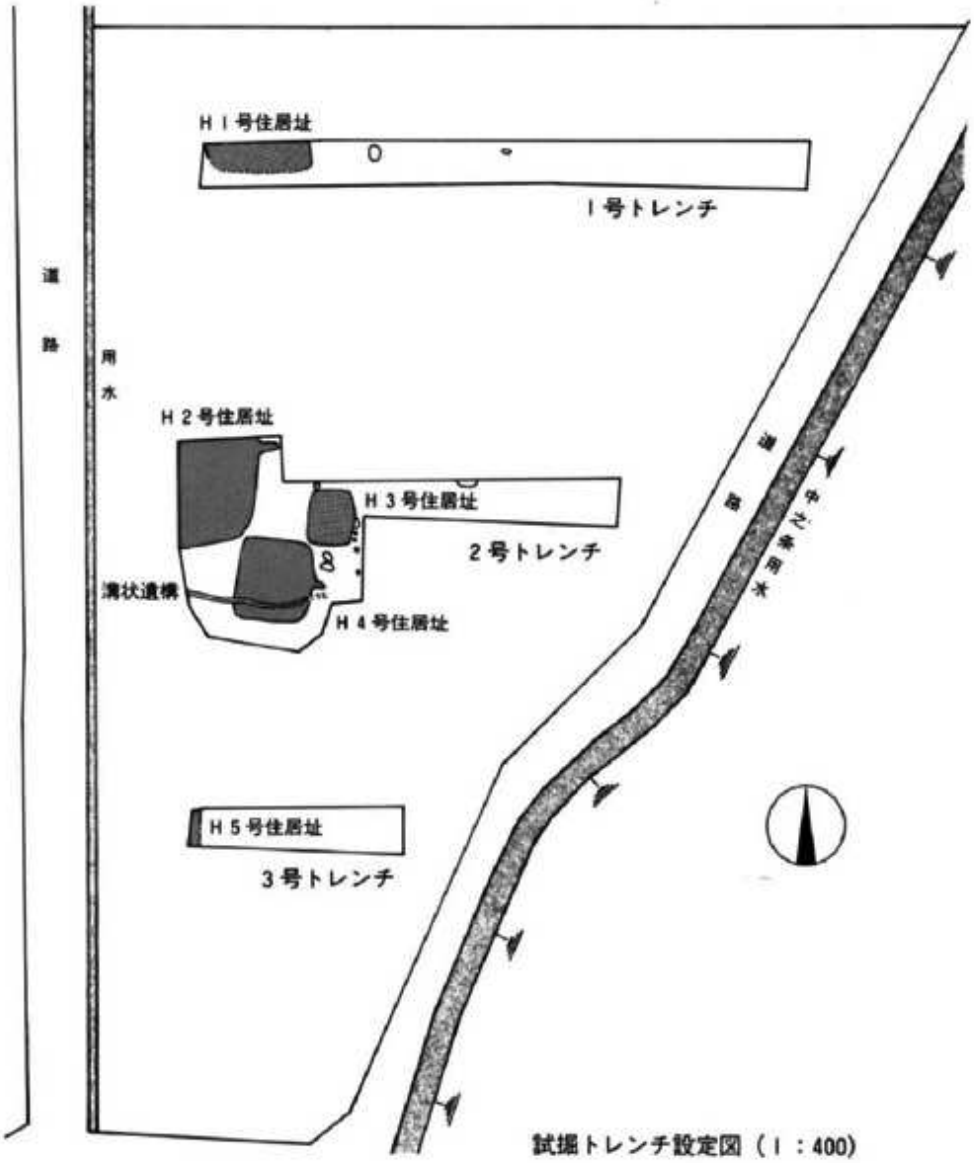


南条遺跡群周辺遺跡分布図（1：1,000）

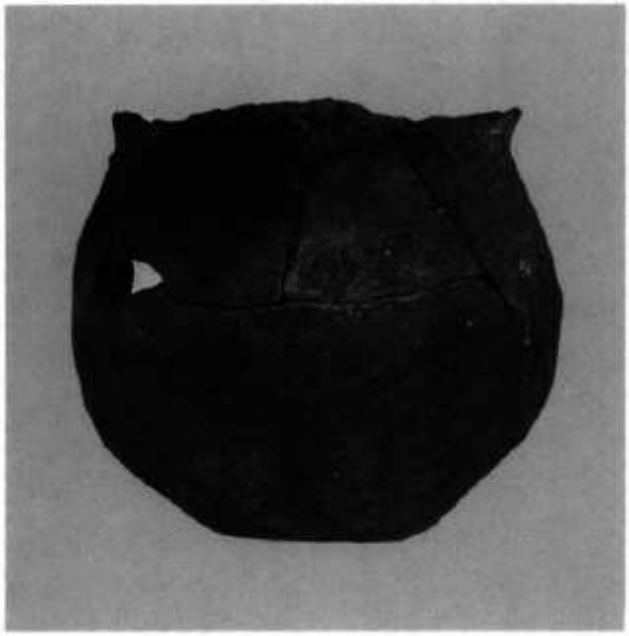
遺構の出土状況、遺跡周辺の発掘調査の結果から、今回の調査対象地は、集落の末端部にあたり、集落址は調査対象地北側、西側に展開していることが予想される。

協議の結果、建物基礎が遺構の検出面まで達しないことから、盛土による保存を行う事となった。

H 2・3・4号住居址検出状況（南東より）



試掘トレンチ設定図（1：400）

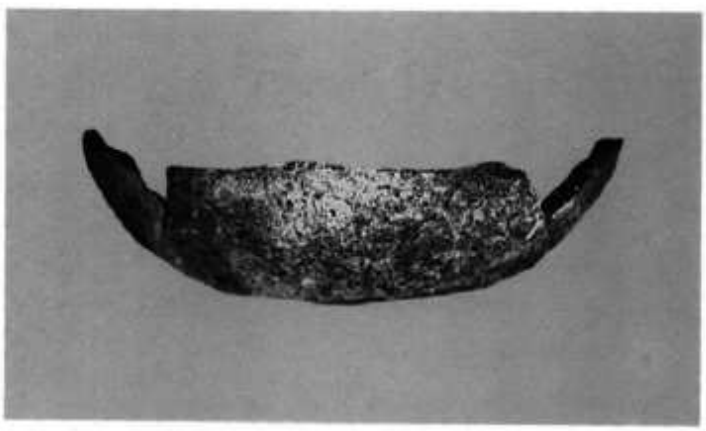


←1号住居址出土遺物　土師器甕

↑2号住居址出土遺物　土師器甕

↑2号住居址出土遺物　土師器甕

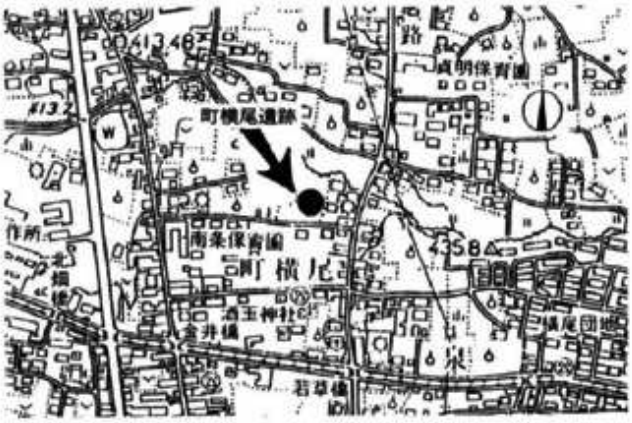
← 4 号住居址出土遺物
土師器甕



→ 4 号住居址出土遺物　黒色土器坏

3　町横尾遺跡

所　在　地　大字南条字城坂4782・4783－1他
事業主体　坂城町土地開発公社
事　業　名　宅地造成事業
調査期間　平成8年11月14日～22日
調査対象地面積　2800㎡　試掘調査面積476㎡
担　当　者　小平光一



位置図（1：10,000）

遺跡の環境と経過

町横尾遺跡は坂城町南条に所在し、標高424m前後を測る。谷川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。分布地図によると縄文～平安の散布地に位置づけられている。調査対象地西側には天正12（1584）年上杉景勝の臣村上景国が、上田城主真田昌幸との攻防戦のため拠ったとの伝承がある観音坂城跡が所在する。土塁の一部が現存するが、城郭の規模は不明である。このことから調査対象地は観音坂城跡に関連する中世の遺構が存在していることも予想される。

今回、坂城町土地開発公社が行う宅地造成事業が計画されたことから、記録保存を前提とした試掘調査を実施し、遺構の存在を確認することとなった。

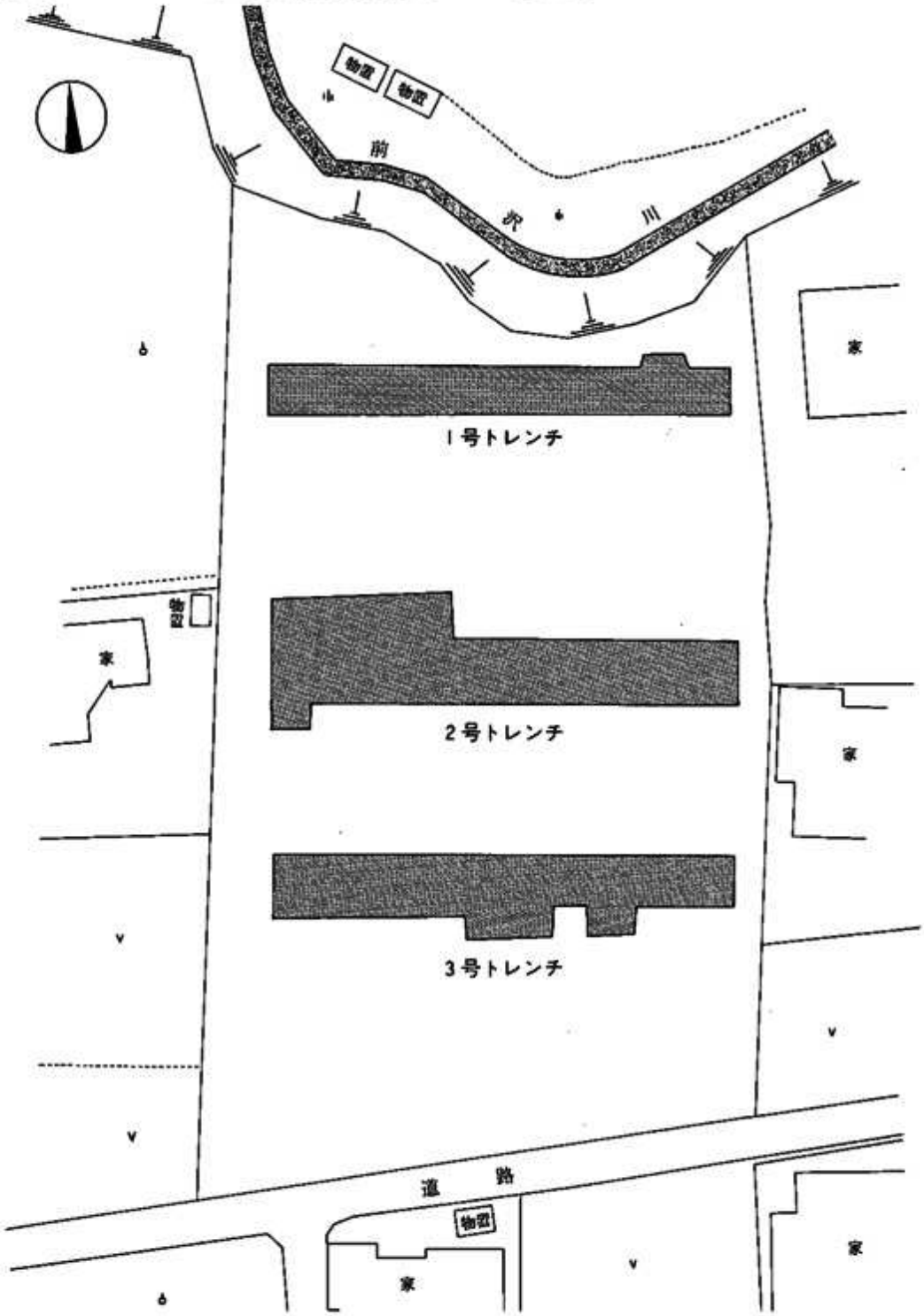
調査前近景（南より）

調査結果

調査対象地に3本のトレンチを入れ、遺跡の有無を確認した。地表下20cm程で地山となるが、1号トレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。2・3号トレンチでは竪穴状遺構、ピット等が検

2号トレンチ調査状況（東より）

出されたが、出土遺物はない。遺物は遺構外で縄文土器1片出土したのみであった。このため遺構の時期は断定できないが、古代～中世にあたると考えられる。以上の結果、遺構の検出された約1,000㎡については、発掘調査を実施することとなった。



試掘トレンチ設定図（1：500）

2号トレンチ遺構検出状況（東より）

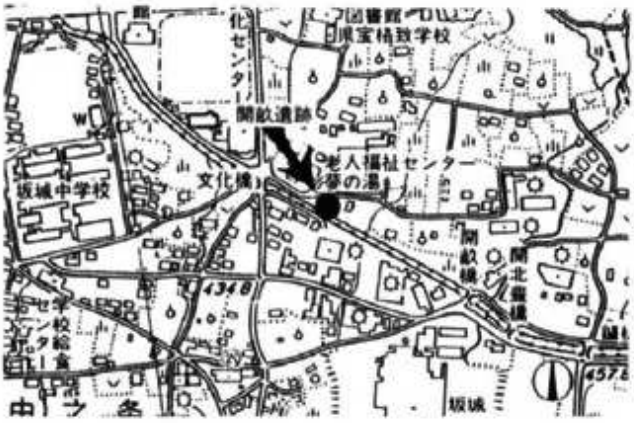
3号トレンチ遺構検出状況（東より）

町横尾遺跡周辺主要遺跡分布図（1：1,250）

「長野県町村誌」（長野県町村誌刊行会・1936）より抜粋

4　開畝遺跡

所在地	大字中之条字開畝2161－3・227－2
事業主体	坂城町総務課
事業名	コミュニティー消防センター建設事業
調査期間	平成9年3月11～12日
調査対象地面積	170㎡　試掘調査面積96㎡
担当者	小平光一



位置図（1：10,000）

調査前近景（西より）

遺跡の環境と経過

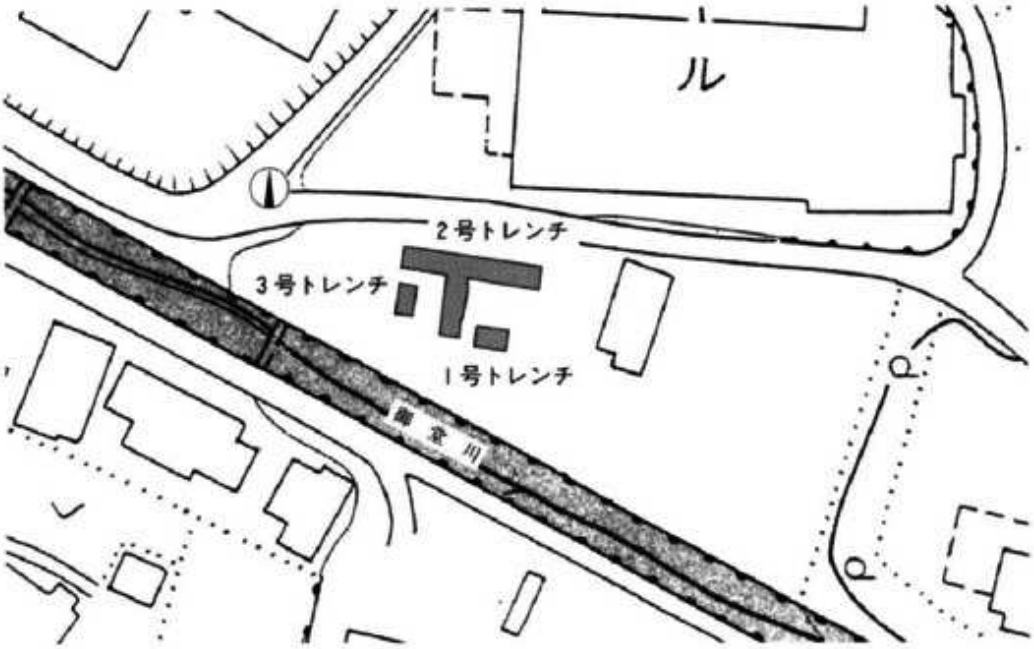
開畝（かいぜ）遺跡は坂城町中之条に所在し、標高438m内外を測る。御堂川（みどうがわ）によって形成された扇状地の扇央部に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、隣接する開畝遺跡Ⅱでは竪穴住居址・土坑址等が出土していることから、集落址が展開していることも予想される。

今回、坂城町総務課によるコミュニティー消防センター建設事業が計画されたことから、試掘調査を実施することとなった。

調査結果

調査対象地に3本のトレンチを設定し、遺構の有無を確認

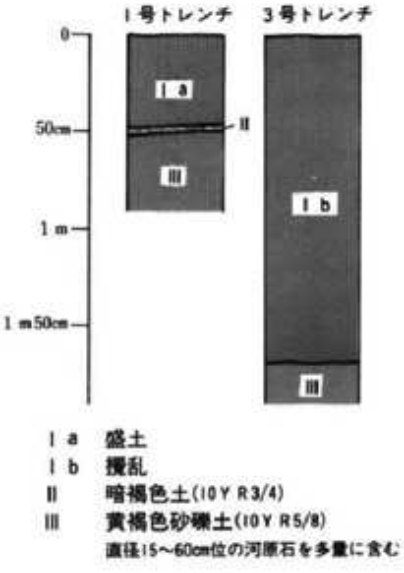
2号トレンチ調査状況（南より）



試掘トレンチ設定図（1：1,000）

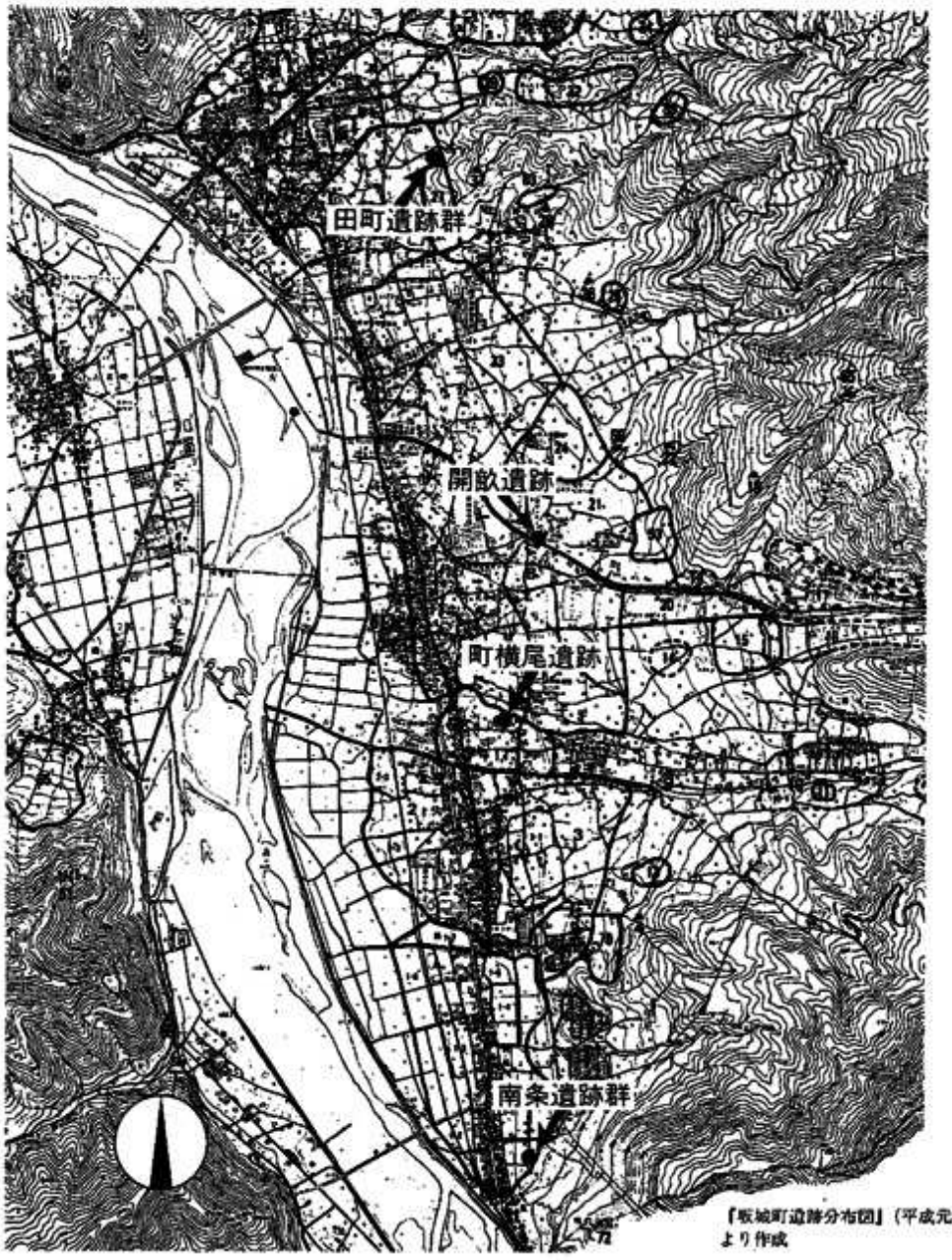
したが、地表下2m近くまで攪乱を受けている箇所が多く、遺構・遺物は確認されなかった。以上の結果、調査対象地は御堂川による押出しの自然堆積であることが判明した。

2号トレンチ基本土層（南より）



基本土層模式図

調査区全景（西より）



町内遺跡発掘調査位置図

坂城町埋蔵文化財発掘調査報告書

	『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群　宮上遺跡II』(概報)	1993
	『南条遺跡群　塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群　東裏遺跡II・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群　塚田遺跡II』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群　寺浦遺跡II』	1996
第7集	『中之条遺跡群　上町遺跡II』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書　1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書　1996』	1997

発行日　1997年3月28日
編集者　坂城町教育委員会
発行者　坂城町教育委員会
〒389－06　長野県埴科郡坂城町大字中之条2468番地　☎0268－82－2069
印刷者　鬼灯書籍株式会社
〒381　長野県長野市柳原2133－5　☎026－244－0235
印刷仕様◇版型　B5版◇頁数　24頁◇版組　電子組版◇製版　モノクロ写真150線
◇用紙　表紙レザック180kg　本文コート紙90kg